

ウガンダより

【牛の種類】

私の住んでいるウガンダ国ムバララ県にはアンコーレ牛という茶色で、とても大きな角を持った土着の牛(写真左)が多く飼養されており、有名です。こ



このアンコーレ牛は乳成分は高いらしいのですが、乳量は低く、肉用の場合が多いそうです。プロジェクトでかかわっている酪農家では、アンコーレ牛はあまり見かけません。最近では人工授精が普及し始めたことや、改良を意識し始めたことで、ホルスタイン柄の牛(写真右)がほとんどです。ただ、その血統は土着の牛がかなり入っており(フリージアン種(ホル)と土着牛との雑種が主)、体格は小さく、乳量も日本に比べると出ていません。本交を用いているとこも多く、改良はなかなか進んでいないのが現状です。ただ、土着の牛は暑さに強く、寄生虫などへの耐性が高いという利点があり、単純に改良を進めていけば OK という話でもなく、ここら辺が難しいところです。

【乳量や草など】

あくまで、プロジェクトにかかわっている農家(約 30 戸)の話ですが、日量約 10Kg といったところです。2 回搾乳(手搾り)で、9 割以上の農家さんが放牧をしています。放牧といってもきちんと草地管理をしているところはあまりありませんが、うまく放牧区を仕切って牛を放している農家ではイネ科のネピアグラス(エレファントグラス)が主な飼料になっているようです。また、ビール粕などの濃厚飼料を用いているところも多く、サイレージを作っているところもあります。

【まずは繁殖】

プロジェクトでは繁殖、栄養、搾乳衛生、ダニ媒介疾病の 4 つに焦点をあてており、農家を巡回してこれらに関するデータを取り、技術や知識の普及といったことをやっています。今年いっぱい「繁殖/



栄養」のことをメインに活動しており、農家を訪問して繁殖検診を行い、草地の調査などを行っています。平均初回受精は約 100 日と、そこまで悪くないのが驚きです。ただ、本交だったりもするので、その正確性は疑う余地ありです。また、BCS のよい牛も多いですが、熱帯特有のダニ媒介性感染症等でポツクリ死んでしまう牛が少なくありません。やはりアフリカですね。